

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 267 『新涼灯火』 しんりょう とうか

< 意味 > 秋の初めの涼しくなり始めたころは、明かりの下で読書をするのにふさわしい時期である意。

表 言 : 新涼灯火に親しむ

用 法 : 新涼灯火の候を迎えて、大いに読書を楽しんでいる。

語 釈 : 「新涼」は初秋の涼しさ。「灯火」は「灯火したしむべき候」の略で、明かりの下で読書するのに適している季節の意。

一 言 : さしもの猛暑もこのところは台風の襲来の影響で雨も降り、かなり涼しくなってきました。確かにエアコンによる涼しさより秋の涼風に吹かれる方が本棚から本を取り出しペー  
ジをめくってみようと思わせるかもしれません

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」